

分担研究報告書

ダイオキシン長期投与による末梢神経伝導速度に対する作用の解析

研究分担者 吉村 恵 熊本保健科学大学大学院保健科学研究科 教授
研究協力者 謝 篤傑 熊本保健科学大学大学院保健科学研究科

研究要旨 ダイオキシンの経口投与によって末梢 Ab 線維の伝導速度が遅くなった。この変化はダイオキシンを長期に投与しても有意差が見られなかった。

A. 研究目的

油症患者に感覚鈍麻や痺れの症状が見られ、ラットを用いた実験からその原因として末梢神経 Aβ線維の伝導速度低下が考えられた。ダイオキシンの長期投与で相乗作用および他の線維にも同様の変化が見られるか否かを検討した。実験はラットを用い倫理的には問題はない。

B. 研究方法

ダイオキシンを週一回、4回連続投与したラットから、後根神経節に後根を付した標本を作製し、Aβ線維のみならず温、痛覚を伝える AδとCにも何らかの変化があるかを調べた。

C. 研究結果

ダイオキシンを単回投与したラットのAβ線維では伝導速度の有意な低下が見られた。この低下は長期投与を行ったラットと有意な差は見られなかった。次にAδおよびC線維の伝導速度について比較したが有意な差は見られなかった。

D. 考察

感覚鈍麻や痺れの程度は個々の症例によって異なることが推測出来た。

E. 結論

ダイオキシン単回と長期投与によりAβ線維の伝導速度低下に変化はなく、さらに、他の線維にも有意な変化を惹起しなかった。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし